

## 渡辺先生ありがとう

E組 笠原直樹

私は県陵卒業後、防衛大学校、陸上自衛隊へと進み、定年まで35年間の自衛官生活を送りました。意義ある充実した楽しい勤務で、自衛隊に入って本当に良かったと思っています。

高校時代から防衛大学校時代のあの頃は、まさに70年安保闘争の真最中。「安保反対」がどこでも叫ばれていた時代でした。自衛隊に対する「誤解」や「反対運動」も蔓延していました。

そんな中、私は防衛大学校の入試を受け入学し、4年間の学生生活の後、悩むことなく陸上自衛隊に入隊したのです。当時の先生方から見ると私は「異端児」だったのかも知れませんが、「お前は人殺しの勉強に行くのか」などと仰る先生もいたくらいですから。

「笠原君、防衛大の試験があるから、腕試しのつもりで受験してみないか」。E組の渡辺三郎先生だけは他の先生とは違いました。渡辺先生はホームルームの時に「本当の友達とは苦しさを共に乗り越え、『同じ釜の飯を食った』仲間だ」と仰ったことがありました。先生の軍隊時代のことを話されたのでしよう。

私は、特に「国防少年」でも「軍事マニア」でもありませんでしたが、渡辺先生のご指導通りに腕試しで受験しました。2次試験で横須賀の防衛大学校に行くと学生が和気あいあいとした雰囲気の中で規律正しく生活している姿を見たとき、興味が湧いて、入学してしまったというのが経緯です。

防大・自衛隊時代は、正に先生が言われていたように、多くの上司・同期生・後輩に恵まれ、人間対人間の信頼関係の中で、苦しい中にも気持ちの良い勤務をすることが出来ました。レンジャー訓練、駐中国大使館の防衛駐在官として天安門事件、北海道のトンネル崩落の災害派遣をはじめ数多くの体験を致しました。

自衛隊を定年退職した時、私は一番に渡辺三郎先生に報告に行きたかった。「先生、貴方の勧めてくれた防大～自衛隊の進路は素晴らしい道でした。ありがとうございました」と。

渡辺三郎先生は、サッカー指導に生涯を捧げ、県サッカー協会会長までなされ、アルウインの建設を含む長野県のサッカーの発展に多大なるご尽力をされて、2003年に83歳でご逝去されたとのことで、感謝の報告が出来ず大変残念に思っています。

私にとっての「県陵の意義」は渡辺先生との出会いだっただけかも知れませんが、渡辺三郎先生のひと言は私の一生を決める素晴らしい指導でした。

渡辺三郎先生、本当にありがとうございました。

合掌